

静岡市・静岡県合同記者会見

駿河湾の海況を“見える化”“予測”できる Web サービス『デジタル駿河湾』公開

日時:2026 年7月 23 日(木) 11:00～

場所:静岡市役所 新館8階 市長公室

～出席者(敬称略)～

1	静岡市長	なんぼ たかし 難波 喬司
2	静岡県 経済産業部 理事(新産業集積担当)	あつみ としゆき 渥美 寿之
3	駿河湾海洋 DX プロジェクト 事業責任者 一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 理事・統括プロデューサー／東京科学大学 名誉教授	はしもと まさひろ 橋本 正洋
4	静岡理工科大学大学院 教授／早稲田大学 上級研究員・研究院教授	たかはし けいこ 高橋 桂子

～次第～

1 開会・出席者紹介

2 説明

- ①趣旨説明(静岡市長 難波 喬司) [資料1](#)
- ②「デジタル駿河湾」の特長、利用方法(中心研究者 高橋 桂子) [資料2](#)
- ③「デジタル駿河湾」の活用可能性等(事業責任者 橋本 正洋) [資料3](#)
- ④MaOIプロジェクト等との連携(静岡県経済産業部理事 渥美 寿之) [資料4](#)
- ⑤デジタル駿河湾の利用方法・利用申込方法のご案内(静岡市) [資料5](#)

3 質疑応答

4 閉会

～席次～



駿河湾の海況を“見える化”“予測”できる Web サービス 「デジタル駿河湾」公開

1 要旨

- ・ 静岡市・静岡県が2024年度から推進する「駿河湾海洋 DX プロジェクト」において、駿河湾の海況を“見える化”し“予測”できる Web サービス「デジタル駿河湾」を開発しました。本サービスを本日(2026年7月23日)から公開します。
- ・ 「デジタル駿河湾」は、駿河湾内の海況(水温、流速、塩分濃度)を5日先まで予測し、地図データ上で表示する Web サービスで、「駿河湾海洋DXプロジェクト」において導入した高性能な大型計算機「MI駿河」エムアイするがを活用し、地域の大学の連携・協力のもと、約1年をかけ構築したものです。
- ・ 既に、外洋など広範囲を対象とした海況予測システムは存在していますが、本サービスは特定の湾内に特化して海水温、塩分、海流の詳細な海況データを“見える化”したものであり、国内では他に例のない先端的な取組です。学術的にも、産業利活用の観点からも大きな価値があると考えています。
- ・ 研究機関、企業、教育機関などでご関心のある皆様に、パソコンやスマートフォンからご利用いただけます。また、2027年4月に静岡理科大学大学院に開設する「海洋 DX コース(修士課程)」では、学習教材としても活用する予定です。
- ・ 今後、研究機関等の多くの皆様が、「デジタル駿河湾」上の海況データを活用し、新たな海洋関連サービスやビジネス(アプリケーション開発等)を展開していただくなど、海洋関連産業の活性化に繋がることを期待しています。

2 「駿河湾海洋 DX プロジェクト」について

- ・ 2024年度に内閣府 地方大学・地域産業創生交付金の事業採択を受けた、静岡市・静岡県共同の事業です。
- ・ 地域の強みである「海洋」に「DX」を取り入れ、最先端の研究開発による技術・サービス開発を進め、新たな海洋関連産業の創出を目指します。合わせて、産業現場で活躍できる海洋人材の育成にも取り組んでいます。(参画機関:静岡市、静岡県、MaOI機構、静岡理工科大学、静岡大学、東海大学、鈴与(株)、NTTグループ)

3 「デジタル駿河湾」の特長、利用方法、活用可能性等について

- ・ 「デジタル駿河湾」の構築にご尽力をいただいた「駿河湾海洋 DX プロジェクト」の高橋 たかはし 桂子 けいこ 中心研究者と、橋本 はしもと 正洋 まさひろ 事業責任者からご説明いただきます。(資料2・3)
- ・ また、静岡県が推進するMaOIプロジェクト等との連携について、静岡県経済産業部 あつみ 渥美 としゆき 寿之 理事からご説明いただきます。(資料4)

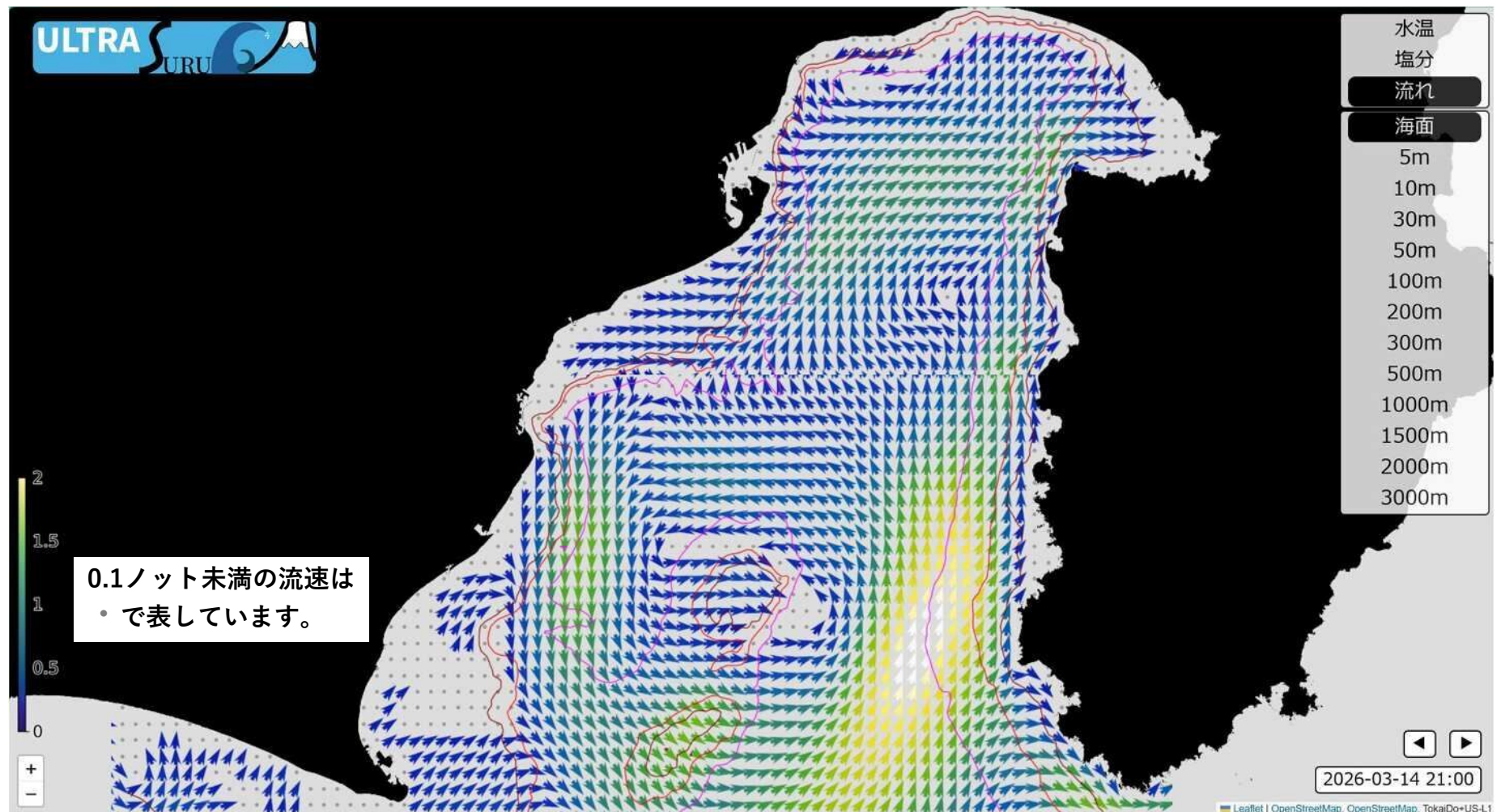
4 その他

- ・ 本日から開催の「TECH BEAT Shizuoka2026(グランシップ)」で静岡県、静岡市、MaOI 機構共同の「海洋特設ブース」を設置しており、本サービスを紹介しています。
- ・ スタートアップ等の皆様に関心を持っていただき、今後の活用に繋がっていきたいと考えています。

静岡市担当:経済局 海洋政策部 BX 推進課(054-354-2133)

『デジタル駿河湾』

資料 2



『デジタル駿河湾』の概要

- 「デジタル駿河湾」は、駿河湾の表面から海底までの超高解像度デジタルデータ（海水の水温と塩分、海水の流れ）を提供します。
- 「デジタル駿河湾」が提供するデータは、大型計算機「**MI駿河**」を利用して、駿河湾モデル「**Ultra-SURUGA**」を用いた超高解像度シミュレーションによって得られるデータです。

「**Ultra-SURUGA**」は、世界的に実績のある海洋モデルMIT-GCMを基盤に、駿河湾に適するよう諸条件を導入した独自開発モデルです。

「**Ultra-SURUGA**」を用いた駿河湾のシミュレーションは、ダウンスケーリング技術を用いて太平洋広域から駿河湾をズームングして計算します。

この駿河湾シミュレーションの初期値や境界値には、気象庁やToday's Earth (JAXA提供) から公開されているデータを使用しています。

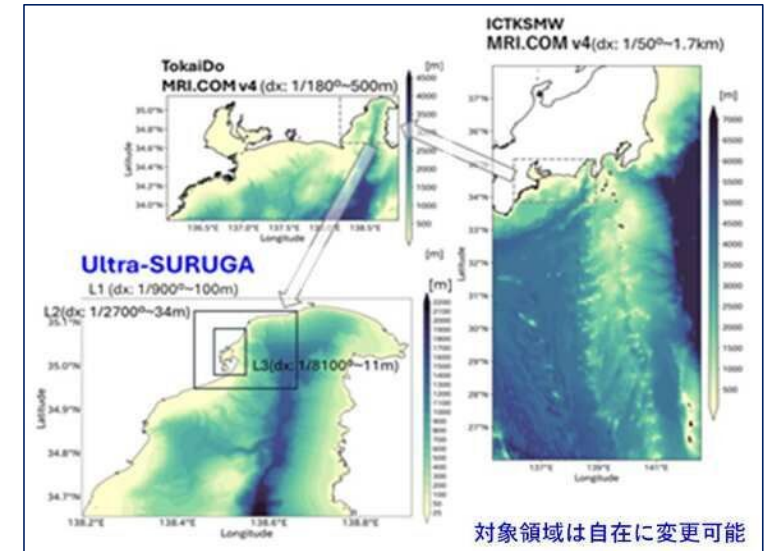
- 「デジタル駿河湾」は、毎日1回、駿河湾の超高解像度シミュレーションを実行し、開始日から5日先までの1時間ごとの予測データを提供します。

超高解像度とは、駿河湾を水平100mの間隔で、表面から海底までを約50cm～100mの深さ間隔で31層の設定を指します。この設定でのシミュレーションは、巨大な計算を高速に実行する工夫が必要です。👉**ここがスゴイ!**

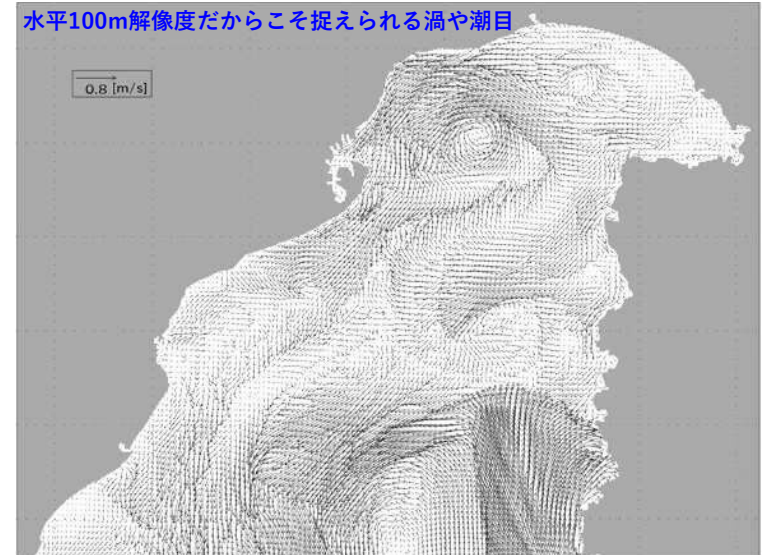
これまでは、駿河湾を知るには19地点の観測データが主流でしたが、「デジタル駿河湾」は292,500地点のデータを提供します。👉**AIも視野に!**

- 今後は、より使いやすく役に立つビューアの開発を進めるとともに、世界初の水平10m～30mごとの駿河湾デジタルデータを公開していく予定です。

駿河湾ダウンスケーリング (概要)



Ultra-SURUGA 水平100m解像度シミュレーション結果(例)



デジタル駿河湾

2026年7月23日 公開

海面水温や潮流などの海況情報を
地図上でわかりやすく表示。
パソコンやスマートフォンから利用可能。



研究機関、企業、教育機関等がデータを活用し、
課題解決や新たな取組にチャレンジ



新たな海洋関連サービスや
ビジネス（アプリケーション開発等）へ

- ・ 漁業・防災・インフラ整備・観光
など幅広い分野へ展開
- ・ 新たなサービス・ビジネスの創出
- ・ アプリケーションの開発など



今後期待される活用のイメージ

1 水産資源・漁業の高度化 (持続可能な漁業の実現)



- ・ 桜えび・しらす等の資源管理の高度化
- ・ 漁場形成の把握と漁獲予測の精度向上
- ・ 科学的なデータに基づく資源管理

例：海況と栄養塩分布を組み合わせたサクラエビ等の
漁場管理・行動メカニズムの解明など

▶ 持続可能な漁業の実現

2 防災・減災の強化



- ・ 津波・高潮の高精度な予測
- ・ リアルタイム情報による避難判断支援
- ・ 沿岸域の浸水シミュレーション
- ・ 防災計画や避難計画の高度化

▶ 沿岸地域の防災力向上

3 港湾・海洋インフラ整備の高度化



- ・ 港湾工事のコストの縮減・工程の効率化
- ・ 海上・海中作業の安全性向上
- ・ 海況に応じた最適航路の活用による船舶運航の効率化

▶ 港湾・海洋インフラ整備の効率化と
安全性向上

4 新産業の創出、海洋人材の育成



- ・ 海洋観光・レジャーへのデータ活用
- ・ 海洋データを活用した新たなサービス開発
- ・ 海洋DX人材の育成と産業創出の促進
- ・ 新たな海洋関連サービスやビジネス（アプリケーション開発など）

▶ 雇用の創出と地域産業の発展

データを「見る」から「活かす」へ。
そして「未来をつくる」へ

デジタル駿河湾を起点に、データを活用する人と仕組みを育て、
持続可能な漁業・安全なまちづくり・強い産業基盤を実現します。



デジタル駿河湾とMaOIプロジェクトとの連携

資料 4

MaOIプロジェクト

- ・ MaOI機構
- ・ 海洋産業企業
- ・ 漁業関係者
- ・ 研究機関 等



- ・ 海洋観測データ
- ・ 水質データ
- ・ 環境DNA



BISHOPの海洋観測データを
デジタル駿河湾へ活用



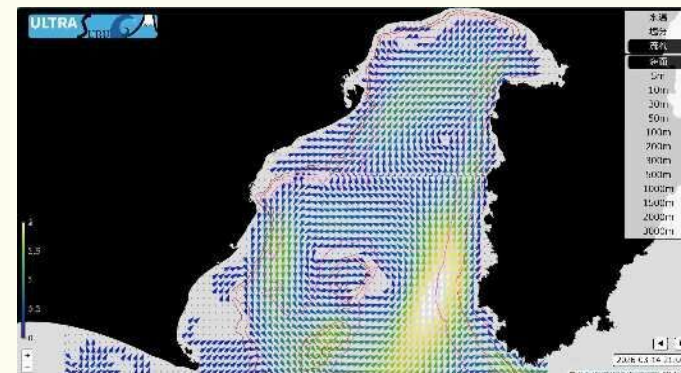
デジタル駿河湾の現海況と予
測データをMaOI機構の研究
や漁業、製品開発へ活用

デジタル駿河湾

URL : <https://forms.gle/cyEELnVa2q4dx82v5>

駿河湾の現海況と予測

- ・ 水温
- ・ 塩分濃度
- ・ 海流



内閣府 地方大学・地域産業創生交付金事業
静岡市・静岡県「駿河湾海洋 DX プロジェクト」

研究分野での活用例

海洋資源量の把握

環境DNA等のデー
タとともに駿河湾
の資源量の予測・
見える化



海洋環境の保全

海洋生物の生息環
境把握による環境
保全政策の検証



産業分野での活用例

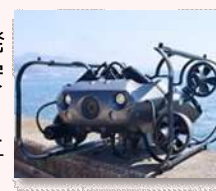
スマート水産業の促進

漁場予測や資源管
理の高度化による
持続可能な漁業・
生産性向上



水中ドローンの開発と運用

水中ドローン開発
・ 運用における安
全性や試験効率、
データ品質の向上



マリンインフォマティクスによる持続可能な海洋利用と地域産業の発展へ



デジタル駿河湾 ご利用案内

デジタル駿河湾のご利用にあたっては、マリンインフォマティクス研究機構(MI 研究機構)※へ利用申し込みをいただく必要があります。

以下、申し込みフォームからご利用者のお名前、ご連絡先等をお知らせいただいた後、MI 研究機構事務局から閲覧用の URL とパスワードを送付します。

【利用申込】 <https://www.kaiyodx.jp/>

下記 QR コードから、MI 研究機構が管理する Google フォームへ移動します。



※MI 研究機構について

MI 研究機構は、静岡理科大学と静岡大学が共同設置し、東海大学静岡キャンパスが連携した研究機構です。MI 研究機構では、海洋に関する多様な社会課題を解決する研究開発に取り組んでいます。

【お問い合わせ先】

マリンインフォマティクス(MI)研究機構

【静岡理科大学】

*駿河湾・海洋 DX 先端拠点化計画推進室

〒424-0821 静岡市清水区相生町6番 17 号

Mail: kaiyodx-ob@sist.ac.jp

TEL:054-204-2721

*袋井キャンパス

〒437-0032 袋井市豊沢 2200-2

TEL:0538-45-0111〈代表〉